

## 勿凝学問 309

限界と平均と総需要

2010年5月22日  
慶應義塾大学 商学部  
教授 権丈善一

先週はいろいろと重なっていてちょっと忙しい振りをしていたけど、そう言えば、この前、次のメールが届いていたな。

先日、「平均消費（貯蓄）性向」のお話を書かれている新聞記事を読みました。

権丈先生は「限界消費（貯蓄）性向」のお話をされてましたね。

論点は社会保障拡充による再分配機能の強化と総需要の関係なわけですが、上記2つはこの点とどのように関わってくるのでしょうか、どのように違うのでしょうか？

面倒だのお——その話題を平均消費性向で論じるのは経済学の基礎的な理解不足だと、なんですぐに分らんのかなあ。

平均消費性向が低所得者で高く高所得者で低くても、限界消費性向が同じなら、高所得者から低所得者に所得が再分配されたとしても、総需要は増えるわけがない。所得の垂直的再分配で総需要が増えることを言うためには、限界概念で話をしなければね。後は、自分で図を描いて考えておいてくれ。ちなみに、ケインズ型と呼ばれている線型消費関数の下では、所得が再分配されても総需要は増加しないよ。次の言葉とかが分かりやすいかな。

消費者調査によると、平均的な失業者は平均的な配当所得受領者に比べて可処分所得のうちより高い割合を支出に回す。つまり失業者は、多くの資産を保有する者と比べると、限界消費性向がたかくなる傾向があるというわけだ。というのも資産の保有者はより裕福なので、可処分所得の増加分のうちより大きな部分を貯蓄に回してしまいがちだからだ。

クルーグマン『マクロ経済学』350頁